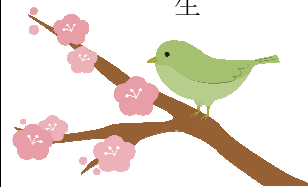


おかげさまで 国語

題字
国語部長
牧野 守先生



岡崎市現職研修委員会
国語・書写部

令和4年3月23日(水)
第3号

それでも、「書くこと」は大切だ

現職研修委員会国語部長

丹羽 郁人

書く。
ひたすら書く。
机に向かう
その清潔なまなざし。
手を休める。
思いをめぐらす。
速くを見つめる
そのやわらかなまなざし。
考えている。
苦しんでいる。
迷っている。
もがいている。
でも、
まちがいはなく
前に進むうとしてしている。

(某鉛筆会社の広告から)

筆記具を強く握りしめて書くために、右手中指の第一関節左部分の皮膚が隆起し硬くなる。これを「ペンだこ」と言う。

「書け。書け。とにかく書け。」と、中学校時代の恩師は繰り返し説いた。書くのはめんどくさい。いやだなあと思いながらも、私は書いた。力いっぱい書いたから、「ペンだこ」は大きくはれあがった。鉛筆を握り締めて懸命に勉強した日は、「ペンだこ」はひりひりするほど痛かった。その逆に、あまり充実していなかった日には、「ペンだこ」は鳴りを潜めた。いつしか、「ペンだこ」は、私の勲章となった……。頑張った日は、いつも「ペンだこ」が褒めて

くれた。

「書くこと」は実にめんどくさい。しかし、「書くこと」で見えてくること、はつきりしてくることで多いのも事実である。今まで経験してきたぼんやりしたことが、書くことで、明確な筋道となって自分の前に現れるときほど、胸が高鳴るときはない。

「書くこと」で、子供たちは自分自身や自分の周りを見つめ直すことができる。それは、明日を「生きる力」そのものを獲得することができるということだ。

「書くこと」は、自分に問いかけることに他ならない。



便利なツールは世の中にあふさんある。しかし、自分と向き合い、過去を見つめるといふ、時間のかかる「書く」という作業こそが、子供から青年に変わる、どの子にも必要だ。

岡崎のすべての子供たちが、これからも長く、書いては考え、考えては書きますようにと、強く願っている。

岡崎の子供たちの「ペンだこ」は、いつも心地よい痛みとともにある。

それは、遅く歩んでいく青年としての、

勲章となる。

活動を支えてくださり、
ありがとうございます

今年度の国語・書写部の活動は、
新型コロナウイルスにより、次のような
影響がありました。

- ・教育研究集会 ↓ 中止
- ・市主張作文コンクール
↓ 発表中止
- ・市小中学生作文コンクール
↓ オンライン審査会
- ・市書き初め展
↓ 入場証配付、入場制限あり
- ・さわらびの会 ↓ 縮小開催
- ・国語・書写主任会
↓ オンライン開催、書面開催

このような中でも、主張作文や
書き初め作品など、子供の思いが
込められた活動については、文集
「おかさき」を発表の場とするこ
とで、子供の達成感へとつなぐこ
とができました。また、現職研修
委員会、授業力・教師力アップセ
ミナー「基礎編」「応用編」、三河
教育研究会 夏季研 岡崎・幸田大
会が開催でき、共に研修に励むこ
とができました。国語主任の先生
方には、例年と異なる対応をお願
いすることになりましたが、各校
での働きかけや取りまとめを通し
て、国語部の活動を支えてくださ
り、ありがとうございました。

岡崎市小中学校書き初め展

一月十五日(土)、十六日(日)、
岡崎市美術館において、「第六十五
回 岡崎市小中学校書き初め展」が
開催されました。市内小中学校と
聾学校から、各学級二点の優れた
作品が展示されました。また、鉛
筆を正しく持つて文字を書こうと
する意識や、基礎的な書写技能を
高めるために取り組んだ「硬筆の
部」(小学校三年生から中学校三年
生)の優秀作品も展示されました。

新型コロナウイルス感染症拡
大防止対策として、入場者を選
者家族のみに制限し、検温や手指
の消毒、間隔をとっての鑑賞を協
力していただきました。鑑賞して
いた子供からは、「こういう字を書
けるようになりたい」というつぶ
やきが聞かれ、更なる向上心を引
き出している姿が見られました。



明朝体と楷書(手書きの字体)
で字形・字体に違いのある例

「比喩」や「語彙」、「二筆箋」は、
比較的使われる機会がある漢字で
はないでしょうか。これらの漢字
を手書きする場合は、次の字体・
字形でも実は問題がありません。

- ・比喩・語彙・一筆箋

これらの赤線の漢字は、平成22
年から「常用漢字」(一般の社会生
活において、現代の国語を書き表
す場合の漢字使用の目安)に加え
られました。つまり、それまでは
常用漢字外だったため、旧字体が
一般的に使われ、認知されてきま
した。それが、常用漢字に加えら
れたため、それよりも前に常用漢
字として規定され、新字体(簡易
字体)となっていた漢字(例 癒 ↓
癒、録 ↓ 録、浅 ↓ 浅)との整合性
を図る必要が生じたのです。他に
も、「溺」「餌」「葛」等の漢字につ
いても同じことが生じています。

このような漢字については『新
「常用漢字表」の主な改定内容』
(三省堂編集所編)に、すべてま
とめられています。この資料は、
次のフォルダに入れてありますの
で、興味がある方はご覧になっ
てください。

[FileShare]—[現職研修部]—
[01 国語部]—[資料]フォルダ

教える漢字の字体と
その根拠について

『改』の『己』ははねますか、は
ねませんか」と、子供に質問され
たとき、どちらだと答えますか。
実は、この返答は小学校と中学校
では異なってくるのです。小学校
では「改」(はねない)、中学校で
は「どちらでもよい」となります。

この返答の違いは、学習指導要
領の記述が根拠となってきます。
小学校学習指導要領国語編には、
「漢字の指導においては、学年別
漢字配当表に示す漢字の字体を標
準とすること」(第4章「2 内容の
取扱いについての配慮事項」エ)
と、明記されています。つまり、
学年別漢字配当表(教科書の後ろ
に掲載)の字体で教えるようにと
なっているのです。学年別漢字配
当表には、「改」と示されているの
でこれが答える根拠となります。
ただし、「正しい字体であること」を
前提にした上で、柔軟に評価する
ことが望ましい」と記されている
ので、この点への留意も必要です。

これに対し、中学校学習指導要
領国語編には、小学校のように、
字体に関する記述がありません。
なので、上段で触れた資料(六頁
参照)を根拠に、答えることにな
ります。